

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

DERWENT-
ACC-NO: 1979-11015B

DERWENT-
WEEK: 197906

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Multicoloured mortar prodn. - by mixing cement and differently coloured granular materials obtd. from cement and fibril-forming polymer

PATENT-ASSIGNEE: YAMAUCHI RUBBER IND CO LTD[YAMM]

PRIORITY-DATA: 1977JP-0065159 (May 31, 1977)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	-PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP <u>53149224</u> A	December 26, 1978	N/A	000	N/A N/A
JP 85044264 B	October 2, 1985	N/A	000	

INT-CL (IPC): C04B013/02, C04B016/06, C04B031/28, E04F013/02

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 53149224A

BASIC-ABSTRACT:

Multicoloured mortar material is prep'd. by mixing (1) coloured flocky coarse grains, formed by mixing 100 pts. wt. of powdery material contg. cement (i.e. hydraulic material) and pigment and 0.1-20 pts. wt. of fibril forming polymer (e.g. fluorine-contg. polymer), (2) similar flocky coarse grains having a different colour and (3) cement.

Mortar is suitable for finishing the interiors and exteriors of buildings. A single coating only is needed.

The pigment is pref. titanium oxide, carbon, phthalocyanine, red-ochre rouge, iron oxide, etc. If necessary, silica sand, calcium carbonate, clay, talc, glass powder, etc., are blended with the powdery material. The polymer is pref. a fluorine-contg. polymer, an olefin resin, polyamide resin, etc. which are prep'd. by emulsion polymerisation.

DERWENT-CLASS: A93 L02 Q45

CPI-CODES: A12-R01; L02-D01; L02-D07;

NO.137

見ておつて、被覆作用が強く、かつ強度の高い
被覆が得て硬化等により被覆が固められる場合に
多くなく、しかも被覆の堅度を保つことと
(被覆の色を組合せて被覆の硬化過程を
示す)して被覆が被覆するセメントの被覆を
得ることとなる。

Cの発明は、セメントと上記被覆を組合成分
としておもに被覆の粉状体を、フィアリ化性
ポリマーとの復縫によりフロック状に有機的
結合せしめてなる着色フロック被覆を、CNEと
同色でかつ少なくともセメントを含んで上記被
覆に形成された1ないし複数個のフロック被
覆または(および)セメントと組合してなる多
孔セメント被覆を要旨とする。

Cの発明に用いるフロック被覆は、必調成分
としてひずれをセメントとフィアリ化性ポリ
マーとし、その他の組合成分としてセメント
とセメントと組合せたものである。

性ポリマーをフィアリ化せしめ、その組合
状態によってセメント、骨材等の粉状体を有
機的に結合せしめて全体をフロック状とし、
おいてこのフロック状の塊を所定の大さきに均
一化することによって得られるものである。そし
てこのようしてつくられたフロック被覆を用
ひのうを組合わせ被覆で混合することと、
所用する多孔セメント被覆を用ひるのである。

Cの発明に用いるセメントは、通常セメント
コンクリートの骨材、石こうや石灰等の在庫
の無機結合材を用けることができる。また骨材
としては、例えば酸化チタン、カーボン、フッ
・シアン、赤銅、酸化鉄、オーカー等を用け
ることとなり、その他の必要に応じて加えられる
充填材といい骨材として、白砂、黄砂、カルレ
クム、クレー、砂利、ガラス砂等を用けるこ

特開昭和-149226の
セメントが、カルカル骨材を形成するため

とも1回のフロック被覆は、上記骨材を

含むことである。また、Cの発明に用いる被
覆の組合せ被覆としては、ひずれをセ
メントと骨材を含んで形成された複数の被

覆被覆の着色フロック被覆を意味する場合と、

Cの着色フロック被覆の1ないし複数個を、

セメントの骨材を含んで形成されたフロック被覆

と混合する場合と、更に上記着色フロック被覆

の1個以上とセメントとを混合する場合とを示

けることである。

上記のようなフロック被覆は、セメントとフ
ィアリ化性ポリマーとを必調成分とし、着色
フロック被覆の場合はこれに骨材を加え、更
に要すれば他の在庫の無機結合材を加えて所定条
件下で混練することにより、上記フィアリ化

ことができる。

一方、フィアリ化性ポリマーは、所定の濃
度で所定の外力、例えばせん断力、扭曲力、拉
伸力等を加えることにより良好な分子鎖を形成
させてくもの無状の液状を構成的状態を形成
し、他の物質をからちセメントとの他の所定は
を取り囲んでCNEを有機的に結合する性質を有
するものであり、一般的に付録Cに示すはア
イシンパウダーと呼ばれる無化粧品としてつく
られた基礎成の含フッ素樹脂、イレフイン系樹
脂、イレフイン系樹脂の外見は、ゴリゴリの樹
脂等を用けることができる。また上記セメント
被覆として更に具体的には、例えばモップ化エ
チレン、モップ化エチレン-モップ化アロヒレ
ン共重合体、モップ化エチレン-メタ-アロヒ
ルビニルエーテル共重合体、モップ化

セメント、アクリル酸アクリル酸共重合物など
である。

このフィラーフ性ポリマーは、日本のおそ
らくその他の樹脂と組合するのの一例的
である。この樹脂はエーダー、リバウフレンジ
ー等を用いて行なはれく、かつポリマーのア
クリル化を可能的速やかにかつ良好に行なへる

ために、常温以上、特に40℃には80~17
0℃程度の温度条件で使用するのが宜しい。
またセメントその他の粉粒は常に用するフィラ
ーフ性ポリマーの配合量は、成膜後所望性状
のフロント状態が得られる範囲内で適宜に決定
しうる。一般的にはセメントその他の粉粒体
100重量部にM-0.1~20重量部程度の範
囲内で用いるのが宜しい。この配合量が少り
すぎるとセメント等の粉粒体の良好な有機的組

合組成を示す。またセメント等の粉粒体の
配合量は、一般的に好ましいアクリル樹脂の
性状は、粉粒体の全體が一様的に有機的結合さ
れていて強度の高いものとされし、首先で強く引張
ると容易に強度を失し、かつ強度で強く引張る
とき最も早く引張り切って強度を失するよう
である。

ローラー状態を利用してつくる白色フロント
の大きさは、セメント等粉粒に露出しよう
とする多色性質との関係において適宜に決め
られる。而且に黑色のフロント相粒の配合比も
同様である。一般的なフロント相粒の大きさは
1~2mm程度とされる。

複数種類のフロント相粒の配合比は1ない
し複数種類のフロント相粒とセメントとの配合
比は、エーダー等適宜の配合量を用いて行なはれ
る。

実施して引張り強度を示すとともに、従来の
通常のセメントと同様に簡単に実現し得ると共
に、人工白色砂石を配合した多色セメントのよ
うにセメント表面を削って白色砂石を露出させる
というような表面仕上げを必要とする欠点もな
い。更に、M-0.1~2フロント相粒の相粒の色を、
配合比MのM-0.1~2によって各種の見つけた多色相
粒を自在に構成できるから、多色化の実現にも
非常に有利である。

M-0.1~2の発明の実施例を示す。

実施例

1) フロント配合

セメント・セメント	35部
セメント(平均粒径80μ)フランジ	65部
アクリル化性ポリマー+ラバゴムエチレン	1.2部
2) フロント配合	

この発明に係る多色セメントは、CPC
水で練って成形物の表面までつけるあるいはへら
すで作製するが、CPCによって形成されるセ
メント表面は、表面に白色フロント用粒の粒度が
M-0.1~2され、一回アクリル化性ポリマーを加
入するものと比較するものとされる。またセメント成
分を含むフロント相粒は、アクリル化性ポリ
マーからなる複数の異なる成膜が成膜条件によって
相粒の結合されたものであるため、セメント
表面層が上記成膜条件によって強化されたものと
なり、長期安定性に優れていて強化等によより
常に化成の弱れを起こさずそれが無い。更に白
色相を含むフロント相粒は、複数の異なる
成膜の有機的結合体からなる成膜性状なもので
ある。実際に磨きコタツで磨てみると表面に

ルセナントランサムント

NO. 1373

ノラスロ(平均分子量80万) 74g フロウタリル 10g
フロウタリル 10g C 10g
7479ル化性ポリエチレン(分子量50万) 5g の場合此でヨーカルして得られた物質は
アミノ酸だ。
8000ルトランドメント 30g ソブセカルタルヒドを水でペースト状に
ガラスロ(平均分子量80万) 74g 30gにして、コンクリート表面に塗り
フロウタリル 10g 附したところ、白地に黒い色の斑点が現
7479ル化性ポリエチレン(分子量50万) 5g びたるのを打たれタル漆面が用られた。
上記A, B, Cを混合せねばならぬ。 ACR 4
アーティボットで100℃で全量のフロウタリルを
封入し、それを白色のフロウタリル球A,
白色のフロウタリルB、および褐色のフロウタ
リルCを得た。
ACR, CN6のフロウタリルA, B, Cを混
合して、得られたフロウタリルA, B, Cは、
フロウタリルA 50g
A 50g
B 50g
C 50g
CN6 50g
7479ル化性ポリエチレン(分子量80万) 60g
7479ル化性ポリエチレン(分子量50万) 5g
上記A, B, Cを混合せねばならぬ。エ
アーティボットで100℃で全量のフロウタリルを
封入し、それを黒い灰色のフロウタリル球A,
灰色のフロウタリル球Bを得た。
ACR, CN6のフロウタリルA, Bを組み
て得られたフロウタリルA, Bは、白色アル
ミニドメントと1:3の割合でとす。
フロウタリル 20g
A 5g
B 5g
CN6 5g
7479ル化性ポリエチレン(分子量80万) 60g
7479ル化性ポリエチレン(分子量50万) 5g
上記A, B, Cを混合せねばならぬ。エ
アーティボットで100℃で全量のフロウタリルを
封入し、それを黒い灰色のフロウタリル球A,
灰色のフロウタリル球Bを得た。